

令和4年度 学校関係者評価報告書

田中千代学園
学校関係者評価委員会

令和4年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員

- ・松田 祐之 前・文化学園大学 教授
- ・大豆生田 守 桑沢デザイン研究所 監事
- ・北出 義博 渋谷ファッション&アート専門学校 講師
- ・松木 茜 渋谷ファッション&アート専門学校 卒業生
- ・森下 利典 渋谷区まちづくり検討委員、一般社団法人日本板画院 常務理事
- ・浅井 貴子 渋谷ファッション&アート専門学校 在校生保護者

2. 学校関係者評価委員会開催状況

- 第1回委員会 令和4年12月2日(金) 13:30~15:00 本校会議室
- 第2回委員会 令和5年1月27日(金) 13:30~14:50 本校会議室
- 第3回委員会 令和5年3月17日(金) 13:30~14:20 本校会議室

3. 報告事項

令和4年度に渋谷ファッション&アート専門学校内の設置された「自己点検・評価委員会」での討議・議論内容をまとめて作成された「自己評価報告書」と令和4年度に実施した「学生アンケート結果」、及び「これからの専門学校の在り方と学生の確保についての対策」と令和5年度の入学者状況について学校関係者評価委員会で確認・評価を行った。

その結果をまとめて「令和4年度学校関係者評価報告書」として完成させた。

以下にその内容を記すこととする。

「自己評価報告書」

本報告書は、理事長、校長、副校長及び教員と職員の一部で構成される自己点検・評価委員会が令和4年度の学校運営や活動に関する事項の自己点検・評価を年度内に3回開催し、その結果をまとめたものである。

・令和4年度重点目標

服飾専門課程～ファッション業界が時代の変化、多様化に伴い専門技術・知識のみならず、関連職種の技能も求められている現状を踏まえて、人材育成と共に学生の学ぶ意欲向上を目的に選択科目を増やす。また、授業編成を週4日制から週5日制にして余裕をもたせ、かつ学外の方の講義・講演など学外交流を図るとした。

結果、デジタル関連対応科目の新設や専門的な選択科目の充実が図れ、学生の学ぶ意欲や要望に応えることが出来た。また、外部講師や学外授業を通じて学生のコミュニケーション力を培う教育環境も整備された。

文化専門課程～美術表現科、造形表現科と表現研究科の3つのそれぞれが特徴的な科で構成され教育指導も異なる部分もあるが、共通の重点目標は、基礎から応用まで、学生の個々の目標を大切にし、着実にステップアップしながらカリキュラム作りと指導を行うこととしている。

結果、学生の学外での活躍が目立ち、公募展や個展、グループ展への参加など学生自身が積極的に発表の機会を広げていた。また、文化専門課程の特徴として留学生比率が高いことがあり、これらの留学生は大学、大学院進学を目指す学生が多くその目標達成に向けた指導、環境づくりを行っている。

そのほか、学校組織運営の基準である10項目についても現状を評価して、課題と解決方法について報告書にまとめた。

このように学校全体の活動について自己点検・評価を継続していくことは学校運営において大変重要で有意義であると判断する。

「学生アンケート結果に対する評価報告」

令和4年度の学生アンケートは、設問内容を昨年度実施の「授業評価アンケート」に加えて、服飾専門課程学生を対象に「学校生活に関するアンケート」を実施した。学生が学校に対してどのような印象を持っているかを総合的に捉えられる内容とした。

・授業評価アンケートについて

服飾課程では、授業に前向きに取り組んでいると受け取れる結果や少人数授業の良さを享受しているとも受け取れる結果が出ている。ただ、学力差から個人指導も多く教員からの働きかけも求められる。前向きの取り組み姿勢がみられることは、本課程の重点目標の取り組み成果が表れていると評価する。

文化専門課程では、留学生が多く学生の年齢幅も広いので、アンケート全体としての授業全体への不満は少ないが個々に見ていく必要があるとしている。ただ、年齢の高い学生の中には授業環境に厳しい目を向けている学生もいるので、真摯な対応も求められるとのことである。

・学校生活に関するアンケート（服飾専門課程学生のみ対象）

本学校への入学の決め手では、学校・在学生・教員の雰囲気、周辺環境、学費や授業カリキュラム内容が決め手となった回答が多い。また、入学後の学校生活の満足度も高く、少人数教育に関しても高い評価を得ている。

「これからの専門学校の在り方と学生確保に向けた対策」

第1回学校関係者評価委員会で理事長より、18歳年齢が減少し続けるなかでかつファッションを希望する学生が全国的に激減して、服飾関連学校の現状は大変厳しい。全国、都内でも専門学校が減少しているとの報告を受けた。

本校は5年前に文化専門課程を導入し、このところ数年の本校の生徒数は、服飾専門課程では横ばい、文化専門課程では増加傾向にある。ただし、服飾専門課程では定員充足率が40%であり、文部科学省指標の50%を下回っており大変厳しい状況にあることは変わらない。

これからの対策として「人口動態にあわせ新課程の導入」を考えているとの説明

を理事長より受けた。また、あと8年で創立100周年を迎える本学園の存続のためにもう一つクリエイティブな柱を立てたいと考えている旨の話があった。

いずれにしても、これからの本学園の在り方を踏まえての具体的な施策の構築は喫緊の課題である。

学生確保の観点から、令和5年度の入学者の応募状況の報告は2023年3月15日現在では以下の通りである。

服飾専門課程ファッション総合科は、入学定員40名に対して応募者数14名。前年比較4名減少であった。文化専門課程は、入学定員120名に対して入学予定者は86名、内留学生数55名である。前年比較では32名増加し、内留学生増加数は34名と文化専門課程は増加している。特に中国からの留学生の増加が顕著であり、これは在留資格取得や進学指導が評価されたことであり、本学の学生確保の上での強みともいえる。

更に、学生アンケート結果から読み取れる本学の特徴や良さを更に磨いて、対外的な発信力を高めて学生確保につなげる施策も喫緊の検討課題である。

以上